

あいさつ 未来の姿を垣間見ることができる提案に期待

平田 直（防災科学技術研究所 首都圏レジリエンスプロジェクト総括 /
 首都圏レジリエンス研究推進センター センター長）



シンポジウムの開会にあたり、主催者を代表してあいさつした防災科学技術研究所首都圏レジリエンスプロジェクト総括/首都圏レジリエンス研究推進センター・センター長の平田直氏は、昨年度から実施しているオンライン方式での公開シンポジウムについて、「いわゆるニューノーマル（新しい生活様式）の一つとして、時間と空間を超越し、遠方の方にも参加していただき、参加者を増やすことにも貢献している」と述べました。

また、当初の活動目的である、地震災害の軽減に加え、最近では台風や豪雨などの気象災害も視野に入れた議論を行っていることも強調。この日、関東甲信や東海の広い範囲で大雨の警報や注意報が出されていたことについて、「命に危険が及ぶような災害がいつ発生してもおかしくない状況」と注意を促しました。

平田氏は、デ活の目的について「データの利活用により、社会の防災力を高め、レジリエンス力を向上させるだけでなく、企業などが自分の組織の経済的価値を高めることにもつながる」ということを、シンポジウムなどの議論の場を通じて共有していきたいとの考えを示しました。特にこの日の第2部で発表される二つの分科会からの提案について「新しい未来の姿を垣間見ることができるかもしれない」と期待を示しました。